


ティーチング・ポートフォリオ兼教員プロフィール

	<p>保育科 特任教授</p> <p>松 井 佳 子 (まつい けいこ)</p> <p>MATSUI Keiko</p>
所属	保 育 科
学位	修士 (法学) (慶應義塾大学)
資格・免許	該当なし
学歴・職歴	<p><学歴></p> <p>1989年 4月 慶應義塾大学法学部政治学科 入学</p> <p>1993年 2月 オーストラリア国立大学 留学 (1993年12月まで)</p> <p>1994年 3月 慶應義塾大学法学部政治学科 卒業 (学士 (法学))</p> <p>1996年 3月 慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻修士課程 修了 (修士 (法学))</p> <p>1998年 4月 オーストラリア国立大学豪日研究センター 訪問研究員 (1998年12月まで)</p> <p>2000年 3月 慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻後期博士課程 単位取得退学</p> <p><職歴></p> <p>1999年 10月 玉川大学文学部教育学科・経営学部国際経営学科 兼任講師 (担当科目: 政治学、国際関係論、国際情勢) (平成16年3月まで)</p> <p>2000年 4月 日本学術振興会 特別研究員 (PD) (2003年3月まで)</p> <p>2000年 4月 大東文化大学法学部政治学科 兼任講師 (担当科目: 海外地域政治研究 (オセアニア)) (2022年3月まで)</p> <p>2002年 4月 玉川大学教育学部教育学科 兼任講師 (担当科目: 平和と人権、政治学、国際関係論、グローバルイノベーション論) (2006年3月まで)</p> <p>2006年 4月 山梨学院短期大学保育科 助教授 (2007年4月から法改正に伴い准教授に職名変更) (担当科目: 社会、総合演習 (現代社会の課題)、幼稚園教育実習指導、基礎演習、) (2009年3月まで)</p> <p>2006年 4月 山梨学院短期大学専攻科保育専攻 兼任 (担当科目: 社会科概論、修了研究) (2009年3月まで)</p> <p>2009年 4月 山梨学院短期大学保育科 兼任講師 (担当科目: 現代の国際関係と日本) (2015年3月まで)</p> <p>2015年 4月 山梨学院短期大学保育科 特任准教授 (担当科目: 国際政治と子どもたち、社会科概論、ほか) (2023年3月まで)</p> <p>2023年 4月 山梨学院短期大学保育科 特任教授 (担当科目: 国際政治と子どもたち、社会科概論、ほか) (現在に至る)</p> <p>2023年 4月 大東文化大学法学部政治学科 兼任講師 (担当科目: 海外地域政治研究オセアニアA) (現在に至る)</p> <p>2023年 10月 慶應義塾大学法学部政治学科 兼任講師 (担当科目: 現代オーストラリア論) (現在に至る)</p>

担当科目	国際政治と子どもたち 社会科概論 国際教育社会特論 専攻科修了研究 家庭問題特論
専門分野	国際社会学、オーストラリア地域研究
現在の研究テーマ	子どもの権利、オーストラリア地域研究
競争的資金等の 研究課題	—
所属学会	日本オーストラリア学会 日本国際政治学会
メッセージ	現在の仕事との出会い、大切な友人との出会いなど、現在の自分自身に影響を与えている大切な出会いが大学時代にありました。皆さんが山梨学院短期大学で過ごす時間やここでの学びが、皆さんの人生の糧となることを心から願っています。
教育	
2023年4月～2024年3月	
教育方針	主体的に社会と関わり、卒業後も自分の生きる道を模索し続けられるような力を養えるよう支援したい。子どもと関わる専門職を目指す学生には、人種、宗教、文化、セクシャリティ、考え方など、社会における様々な多様性を認識した上で、多様性に対して寛容な態度を身につけて欲しいと願っている。
授業	<p>授業の工夫</p> <p><社会科概論> 社会科は暗記科目として認識されることも少なくないが、本来は、社会の構成員として、いかに幸福に、よりよく生きていくのかを考えるために主体的な学びが必要な科目である。本講義では将来、小学校教員として児童生徒に対してそのような授業運営ができることを目指すと同時に、学生自身も主体的学びの姿勢を身につけることができることを目指している。そこで、小学校の社会科授業の背景となる社会、政治、公民的知識を学ぶとともに、毎回のディスカッションや、プレゼンテーションする機会を取り入れるなどのアクティブラーニングを積極的におこなっている。</p> <p><国際教育社会特論> 保育科の学生は小学校免許の取得を目指すことも多いが、近年では外国につながる児童生徒の学びについても考慮して、誰もが排除されない教育をおこなう視点が重要となっている。本授業では、保育者や小学校教員として異文化に繋がる子どもや保護者に配慮すべきことについて学ぶと共に、日本人の子どもにとってもその環境がメリットとなるような多文化教育の展開について考えを深める。また、学生が国際的な視野を広げることができるよう海外の事例についても積極的に紹介している。授業ではグループワークを取り入れながら、各自が自分自身の意見を持つことができるまで学びを深めると共に、プレゼンテーションの機会も設け、自らの考えを他者にわかりやすく伝えるスキルも養うことを目指した。</p> <p><国際政治と子どもたち> 学生の中には、日本だけでなく世界の子どもたちに対する関心を持つ人も非常に多いが、本講義は、本科の学生が本学の2年間の中で、世界の諸課題や国内の多文化的状況などについて学ぶ数少ない機会であるとして講義をおこなっている。したがって、現代の事例についても多く言及するよう心掛け、学生が日々の生活の中で問題意識を涵養できるよう努めている。社会科系科目への苦手意識や思い込みにとらわれないように、例年、画像や図表などで視覚化した独自のスライドを利用しながら講義をおこなっている。</p>

教育（つづき）		
2023年4月～2024年3月（つづき）		
授業（つづき）	授業改善のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・Webclassも積極的に利用し、学生にとって、よりメリットがある方法を模索しながら授業改善をおこない、効果的な学びになるよう工夫している。ICT教育については今後も自らも学びながら、試行錯誤していきたいと考えている。 ・講義では、学生の理解が深まるよう必要な教材資料を教員自身が作成している。講義内容に応じ、画像、図表、最新の事例などを盛り込んだパワーポイントスライドを作成し、視覚的にもわかりやすい講義を意識している。諸外国の情勢、文化など、文章のみでは伝わりにくい事柄は画像や映像などを利用し、独自のスライドを利用しながら講義をおこなうことにより、学生の関心が強まり、より深い理解が促進できるよう努めている。 ・グループディスカッションやプレゼンテーションを取り入れ、学生が自らの考えを深め、また他者に分かりやすく伝える力を養えることをめざしている。
ゼミ	ゼミ活動 （卒業演習） （修了研究）	専攻科の修了研究ゼミでは、それぞれ個別の研究テーマを深めながら、先行研究の文献調査をおこなった上で、自らの研究に取り組んでいる。また、質的研究、量的研究といった研究手法、研究倫理についてなど、修了研究に必要な知識を得ると共に、学術論文の作成方法などのアカデミックスキルについても詳細に学んだ上で、各自アンケート調査やインタビュー調査などを実施して研究を深めることができた。
	卒業レポート・ 修了研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校の子どもの居場所に関する考察 ・一時保護所に関する認識についてー短期大学生へのアンケートを通じてー ・子どもの食行動に対する支援に関する考察ー保護者へのインタビューと児童発達支援センターの食事場面の観察を通じてー
課外活動	—	
2023年3月以前		
主な教育業績	—	

研究		
2023年4月～2024年3月		
タイトル（単著・共著）	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
（学術論文） 子どもアドボカシーに関する一考察－短期 大学生に対するアンケート調査から－ （共著）	2024年 3月	山梨学院短期大学紀要 第44巻
2023年3月以前（主なもの）		
タイトル（単著・共著）	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
（著書） 多文化交差世界の市民意識と政治秩序形成 （共著）	2008年 1月	慶應義塾大学出版会 <担当部分> 第一章「オーストラリアの『アジア 太平洋国家化』言説と多文化主義」
（学術論文） 性の多様性に関する短期大学生の知識と意識についての一考察－性的マイノリティに関するアンケート調査から－ （共著） <外部リンクあり>	2023年 3月	山梨学院短期大学紀要 第43巻 (pp. 65-75)
（学術論文） 不登校はどのような「問題」とされてきたのか－「問題」から子どもの権利の模索へ （単著） <外部リンクあり>	2022年 3月	山梨学院短期大学研究紀要 第42巻 (pp. 55-66)
（学術論文） 小学校における性的マイノリティ支援と理解に関する考察－小学校教員に対する質問紙調査を通して－ （共著） <外部リンクあり>	2021年 3月	山梨学院短期大学研究紀要 第41巻 (pp. 91-102)
（学術論文） 転換期の南太平洋地域におけるオーストラ リア外交 （単著）	2017年 12月	教職課程センター紀要 2号 （大東文化大学教職課程センター） （pp. 259-266）
（学術論文） オーストラリア外交における難民問題と地 域的解決の模索 （単著）	2016年 2月	法学研究 第89巻第2号 （慶應義塾大学法学研究会） （pp. 289-315）

研究 (つづき)		
2023年3月以前 (主なもの) (つづき)		
タイトル (単著・共著)	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
(学術論文) オーストラリアの多文化主義から見えるもの (単著)	2012年 3月	国際比較政治研究 第21号 (大東文化大学国際比較政治研究所) (pp. 36-51)
(学術論文) 多文化社会における社会統合に関する一考察: オーストラリアのシティズンシップ・テスト導入について (単著)	2009年 8月	山梨学院短期大学紀要 第29巻 (pp. 171-182)
(学術論文) 保育園におけるひとり親家庭への支援について—保護者への聞き取り調査を通して (共著)	2009年 8月	山梨学院短期大学紀要 第29巻 (pp. 109-125)
(学術論文) 多文化共生社会における保育に関する一考察—山梨県内の保育者へのインタビュー調査を通して (共著)	2008年 6月	山梨学院短期大学紀要 第28巻 (pp. 109-125)
(学術論文) オーストラリアによるカンボジア和平プロセスへの参入—第三者としての役割の模索とASEAN諸国の反応 (単著)	2004年 9月	法学政治学論究 第62号 (慶應義塾大学大学院法学研究科) (pp. 1-34)
(学術論文) オーストラリア外交におけるミドルパワー意識の起源 (単著)	2001年 9月	法学政治学論究 第50号 (慶應義塾大学大学院法学研究科) (pp. 1-32)
(学術論文) カンボジア和平プロセスにおけるオーストラリア提案—提案の形成過程にみるミドルパワー外交 (単著)	1999年 9月	法学政治学論究 第43号 (慶應義塾大学大学院法学研究科) (pp. 247-277)

研究 (つづき)		
2023年3月以前 (主なもの) (つづき)		
タイトル (単著・共著)	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
(学術論文) オーストラリアの提携外交に関する一考察 —APEC イニシアティブにおけるミドルパワー外交 (単著)	1997年12月	オーストラリア研究 第9号 (筑摩書房)
(学術論文) ミドルパワー外交に関する一考察 —オーストラリア外交を題材に— (単著)	1997年6月	法学政治学論究 第33号 (慶應義塾大学大学院法学研究科) (pp. 379-412)
(その他：調査報告書) (平成19年防衛省委託研究) 豪州の安全保障戦略と日豪防衛協力 (共著)	2008年3月	財団法人平和・安全保障研究所 (担当部分) 「豪州の対東南アジア戦略」 (pp. 68-83)
社会貢献		
産官学連携、高大連携、研修会講師、学外委員会活動、学会活動、講演会、等		
2023年4月～2024年3月		
—		
2023年3月以前 (主なもの)		
山梨学院短期大学地域連携研究センター公開講座講師「不登校について考える—子どもの SOS をどのように支援できるのか—」(2022年9月29日)		
受賞 ※個人、所属団体		
<ul style="list-style-type: none"> ・農林水産省 第3回 食育活動表彰「教育関係者・事業者部門消費安全局長賞」(2019年) ・富士ゼロックス小林節太郎記念基金フェロウシップ受賞(1997年) 		